

あいさつ運動と地域社会

—— 見えてきたあいさつ運動の姿 ——

野川地域の小・中学校のあいさつ運動から！

発行：野川町内会、野川南台団地自治会
野川西団地自治会、野川台自治会
編集：支え合う福祉の風土づくりを進める会

小冊子の作成に当たって

地域のつながりが薄れがちな昨今、野川地域の各小・中学校では、この10余年来、学校はもとより、児童会・生徒会等が中心となって、民生委員や地域の人と一緒に他地域に例を見ない「朝のあいさつ運動」を先輩から引き継いで進めてきております。

今日、「互助」のお互いさまの関係づくりが大きな課題となってきた中で、改めてあいさつの大切さがクローズアップされてきているように思えます。そうした状況下で、今般今までのあいさつ運動の経緯や関係してこられた方々の思い等を整理し、小冊子を通じて、その様子を保護者や地域の人たちにも伝え、次代に向け子どもたちの健やかな成長はもとより、見守り、支え合う自立と連帯の地域社会に繋げていくことの一助になればと思い作成したものです。

この小冊子の作成に当たり、当初の頃からあいさつ運動に係わってこられた各小・中学校の校長先生や地域の方々及び現役のPTA会長には多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

平成31年 3月10日

野川町内会長 野川南台団地自治会長、野川西団地自治会長、野川台自治会長
支え合う福祉の風土づくりを進める会（事務局 野川台自治会内）

目 次

1 はじめに	見えてきたあいさつ運動の姿！ — 家庭・学校・地域の過去・現在・未来への係わり —		
	野川地域の4つの町内会自治会長	2	
2 寄稿	あいさつは私が主役になれる	田園調布学園大学 前教授 小林 俊子先生	3
	(解説) あいさつは、笑顔を生み出します！		
3 野川地域の小中学校の校長先生(元・前・現)の思い			
(1) 野川小学校	命と命をつなぐ「あいさつ運動」	藤生 豊(現)	5
	あいさつ運動の思い出	志村 辰也	6
	益々の地域発展に	中川 久資	6
(2) 西野川小学校	地域の人とあいさつがしたい	三村 修一	7
	あいさつ運動～共に支え支えられ～	榎本 重次	7
	あいさつは身体で！	高橋 順一	8
	継続は力なり	白坂雅妃子	8
(3) 南野川小学校	地域で育つ子どもたち	高橋 邦夫	9
	あいさつっていいね	秋本 和子	9
	野川地区の取り組みを広げよう	木下 孝文	10
(4) 野川中学校	あいさつ運動が育むもの	今井 勇	10
	「懐かしい野川中学校区」	北谷 辰雄	11
	心温まる野川中学校でのあいさつ運動	堀川 芳夫	11
	*各校長先生は、広報紙「あいさつ運動の輪」(H20年創刊号～20号)に執筆頂いた方です。		
4 野川地域の小・中学校のPTA会長の思い			
(1) 『おはよう』で笑顔の輪を	野川小学校	平野 洋一	12
(2) あいさつで培うチーム西野川の絆	西野川小学校	石渡 圭輔	12
(3) 広げよう、あいさつ運動の輪	南野川小学校	高野 貴生	13
(4) 地元の小・中学校と係わって10年！	野川中学校	亀ヶ谷 豊	13
(5) 未来へとつなぐあいさつ運動の輪！	元西野川小学校	山本 友彦	14
5 あいさつ運動を推進してこられた主な関係者			
(1) あいさつ運動の思い	元野川中学校地域教育会議議長	亀ヶ谷 修	15
(2) 絆づくりは行動で	元あいさつ・防犯パイロット推進委員会	白井 裕一	15
(3) 現代版「向こう三軒両隣」の大切さ	元宮前第一地区民生児童委員協議会会長 前宮前第一地区社会福祉協議会会長	青木 寅治	16
6 広報紙「あいさつ運動の輪」の抜粋記事(資料編)(H20創刊号～21号)			
(1) あいさつから始まる「心」と「心」のふれあい(区役所からのメッセージ)			17
(2) そして、希望は 人と人とのつながり(寄稿等)			18
(3) 小・中学校の校長先生と先生方の実践とその思い			19
□野川小学校 19 □西野川小学校 21 □南野川小学校 23 □野川中学校 25			25
(4) 学校と地域が一緒にあいさつ運動の標語づくり(概ね3年に1回作成)			27
(5) 三つの小学校の児童の思い			28
(6) 野川中学校の生徒の取り組み(あいさつと地域との係わり・絆づくり)			31
(7) 地域に根ざし、愛される「西野川小学校おやじの会」の活動			34
(8) 自治会のあいさつ運動の発端と目指すところ			35
(9) 地域の人や関係者のあいさつへの思いとその少し先			36
(10) あいさつの飛び交うまちに犯罪なし(安全でうるおいのあるまちづくり)			39
(11) 大震災の教訓 —いざという時に頼れる近隣の力—			40
あとがき	・支え合う福祉の風土づくりを進める会の組織 ・協賛団体等名一覧		表-3

見えてきたあいさつ運動の姿！

— 家庭・学校・地域の過去・現在・未来への係わり —

近年、人と人とのつながりが薄れ、子どもたちがいじめに合ったり、犯罪に巻き込まれたり、また、高齢者が、孤独死したり、振込詐欺にあったりするなどのニュースが報じられており、今の時代にふさわしい地域コミュニティの構築が必要とされています。

そうした状況の中で、私たち野川地域の先輩たちは、10余年前からあいさつ運動を学校と協力し合って進めてきました。当初、野川小学校の校長先生が現場の思いから校門での朝のあいさつ運動を始められ、引き続き野川中学校区地域教育会議が、登下校時に合わせた「8・3運動」等の見守り活動、そして西野川小学校の児童の「地域の人とあいさつをしたい！」という声に応えた朝のあいさつ運動への自治会の参加等、野川地域では、先生方や児童会・生徒会主導の基にあいさつ運動が地域の町内会や民生委員等も参加した形で、広がり、そして道であっても、あいさつをする子どもたちが増えてきております。

あいさつ運動が、草の根のごとく着実に運動として広がってきたのは、「あいさつをすると私も、君も気持ちがいいよ！みんなの顔に花が咲くよ！」といった子どもたちの気持ちにも現れていますように、人と人との出会いの始まりの言葉として、子どもも、大人も心が通じ合う不思議な力を持っているからだと思います。もちろん即効薬ではありませんが、この不思議な力、“魔法の力”を上手く生かし、当初①子どもたちの健やかな成長、②犯罪等から子どもたちを守りながら③支え合うコミュニティの形成をめざし、それぞれの地区の特性を踏まえた形で家庭・学校・地域が連携して進めてきております。

こうした野川地域の地道なあいさつ運動は、他の地域にあまり見られなく、世代間交流にも通じ、野川地域の財産として育ってきていると言えるのではないのでしょうか。そして将来を見据えた究極のあいさつ運動は、地域・隣近所のあいさつの日常化、つまり子どもも大人も日々のあいさつを通じて、お互いに気遣ったり、支え合ったりする間柄、言うなれば現代版の「向こう三軒両隣」のお互いさまづくりにあるのではないのでしょうか。勿論、気づき支え合う間柄は、教育や福祉の面だけでなく、地震等災害時対応はもとより、ゴミ、環境美化、防犯、交通等すべての町内会・自治会活動等に及ぶと言えると思います。

その意味でも、今日の少子高齢化と財政事情等を踏まえた社会の大きなうねりの中で、野川地域の町内会・自治会として、引き続き5年、10年のスパンで、家庭、学校、地域等が一体となって「あいさつの輪」、「お節介の輪」の広がりに努めていきたいと思います。ささやかではありますが、そうした地域の過去・現在・未来への道程として少しでもご参考になればと思い、諸先輩の声を伺いながらこの小冊子をまとめさせていただきました。さらなる皆様のご理解とご協力をお願いできましたら、幸甚の至りです。

平成31年3月10日

野川町内会	白井 哲夫会長
野川西団地自治会	山川美恵子会長
野川南台団地自治会	庄司 幹夫会長
野川台自治会（主筆）	山本 友彦会長

あいさつは私が主役になれる

田園調布学園大学人間福祉学部 前教授 小林 俊子

産業構造の変化により、人口構造の変化、国民の意識が変化し、これを背景に地域での生活スタイルが大幅に変わってきました。

宮前区も大規模な住宅地の開発に伴って人口増加しました。また同時に集合住宅も驚異的に増加しました。かつての商店街でなく、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで買い物ができるようになりました。さらに昨今ではインターネットの普及、各自が所有する携帯電話、スマートフォン等により、必要な情報の取得のみならず、他の人とのコミュニケーションも直接会って行うのではなくても済むようにさえなりました。その上、買い物も店舗に行かなくて通信販売等の利用で購入できるようになりました。

子育てに関しても、かつて「公園デビュー」という言葉で表されるような現象がありましたが、昨今では公園で個々の親子が相互に交流の機会を自ら生み出すことすら比較的少なくなっている面も否定できないのではないのでしょうか。

高齢者では、出来る限り住み慣れた地域で生活を続けたいと希望する方々が多くいます。高齢者のみで、あるいは一人でも生活をしていくためには、遠くの親戚より近くの他人という言葉が語っているように、地域の人々との関係ができないと可能とはならないでしょう。関係づくりの第一歩は、相手を知ることです。それは挨拶から始まります。

あいさつの第一段階は会釈でもよいでしょう。知り合いでなかった人と、たとえ会釈でもすることは、勇気があるかもしれません。でも会釈されて不快な

気分になる人は少ないのではないのでしょうか。人は、自分の存在を認められることに喜びを感じます。

次の段階では声を出してみるとよいでしょう。さらに季節の話題でも話せるようになるとよいでしょう。

住みよい地域の福祉実現には、地域住民はサービスの受け手でもあります。同時に担い手の主体でもあるとの意識を作ることが重要でしょう。それは何かの団体に属してボランティア活動をするのもよいでしょうが、自分たち一人ひとりが地域を作っていけるかけがいのない存在であり、仲間の一人であるとの意識をもって日々を暮らすことが重要でしょう。

その結果、地域協同体としての相互関係意識が形成されるでしょう。自分から誘うことができなくても、声を掛けられたら返事をしてみましょう。単なる安否確認でもよいですが、誰かが自分の存在を見ていると認識することは、「自分はどうでもよい」「自分は誰からも必要とされていない」「自分のやっていることはバレナイデすむ」「見つからなければ大丈夫」等々といったことではなく、一つ一つの行動に意味を持つようになるでしょう。そして、何か困った時には安心して依存できるような地域が作られるようになるでしょう。

民生委員・児童委員、町内会・自治会、PTA会員等身近な地域の資源との連帯力の強化と、協働としての相互認識をとることですが、そのかすがいは挨拶と言えるでしょう。

(解説) あいさつは笑顔を生み出します！！

田園調布学園大学 前教授 小林 俊子

私たちは何かにつけ挨拶をしています。でも挨拶をしたくないときもあるでしょう。また「最近の若い人は、挨拶もできない」とか「知らない人とは話してはいけない」とか親から言われているから挨拶はしないとか、「挨拶をしなくても別に困らない」等々ということを耳にすることも少なくありません。

そこで挨拶について、少し考えてみましょう。

挨拶をすると笑顔が増えます。それは次のような理由です。

一つ目は、挨拶からコミュニケーションが始まります。知らない人とでも、挨拶するうちに話をするようになります。話をする中で、人とのつながりができます。私たちは一人ではなく、家族や友人の中で生活をしています。話をしてみても相手を知ることができます。そのきっかけは挨拶でしょう。はじめは知らない人でも勇気を出して挨拶をしてみましょう。挨拶をしてみると、気持ちがほっとしてくるでしょう。そして自然と笑みが出てくるでしょう。

二つ目には、挨拶するときには自然と笑顔になります。気持ちがこもっていたり、悲しんでいたるときには笑顔を作ることはできません。笑顔になると心も元気になります。学校でお友達と喧嘩したり、勉強がうまくいかなくて悲しかったり、家庭で思うようにならなかったりと、日常生活ではいつもいつも笑顔でいられるとは限りません。そんな時に誰かに大きな声で挨拶をしてみましょう。心が落ち込んでいるときは、まず、元気に振る舞い挨拶をしてみましょう。あいさつするときには笑顔が出ます。そして、心も軽くなります。

三つ目は、大きい声で挨拶すると、口調もきはきはきと歯切れよくなり気分が良くなります。また、挨拶をされる人も気持ちよくなりお互いにプラス思考になれます。かつてある地方都市で、小学生や中学生と道で出会うと見ず知らずの旅行者である私に、元気よく「おはようございます」、「こんにちは」等々と挨拶をしてくれました。最初はだれかと間違えて挨拶をしてきたのかなと思いました。が、何人にも挨拶をされているうちにその地での教育ではないかと考えました。

理由はともあれ、挨拶をされると気持ちが良くなり、私も大きな声で、挨拶を返したところ、笑

顔が返ってきました。見知らぬ土地でしたが気持ちよく仕事を終えることができました。

四つ目に人間関係が良くなるとともに、交流の幅が広がります。人はみな自分と同じ価値観を持っているとは限りません。時にはお互いに意見が対立することもあるでしょう。そんな時は何とか修復したいと望むでしょう。しかしながら「仲直り」できません。お互いに意地を張ったり、相手を受け入れなかつたりします。そのような時に勇気を出して「おはようございます」、「こんにちは」等と挨拶をしてみるとよいでしょう。人は誰かに自分の存在を認められることで安心します。挨拶をされるということは、その人の存在を認めているということのあらわれです。挨拶してもすぐに関係が修復されるということはないかもしれません。しかし挨拶を続けることで、次第にお互いの良い関係がつくられるようになり、時にはとても強い信頼関係も生まれてきます。また、単に対立していた2人だけの関係のみでなく、クラスや、部活や、職場全体の雰囲気も良くなり、信頼しあえる集団が作られることでしょう。

五つ目に、人と人との関係は礼に始まり礼に終わると言われますが、その礼の基本は挨拶と言えるでしょう。朝は「おはようございます」から始まり、「おやすみなさい」で1日を無事に過ごせたことに感謝するとともに明日への希望をもって床にはいることでしょう。「あの人は挨拶もろくにできない」ということを聞くこともあるでしょう。また逆に「あの人は、こんな私にもいつも丁寧に挨拶をしてくれて、本当に常識のある方ですね」ということも聞くことがあるでしょう。このように挨拶によって他人からの評価も異なってきます。常識のある人と思われることは、嬉しいことでしょう。

最後に挨拶は、何の準備も資格も費用もかかりません。いつからでも、その気になれば始められます。1人が始めれば、家族に、友人に職場に地域に挨拶の笑顔が生まれてきます。挨拶は難しくありません。

もし挨拶するのが恥ずかしかったら笑顔を作ってみましょう。そうしたら自然と挨拶の気持ちが出てくるでしょう。

3 野川地域の小・中学校の校長先生(元・前・現)の思い

命と命をつなぐ「あいさつ運動」

野川小学校 校長 藤 生 豊

野川地域で「あいさつ運動」が始まってから、10数年経ちました。当時野川小学校の校長であった三枝校長が、朝正門で「あいさつ運動」を始められたのがきっかけだったと聞いております。その運動が野川地域に広がり、今も続いていることに野川地域の深いつながり、絆を感じます。

「挨拶」の「挨」には、「押す・背を叩く・心を開いて近づく」、「拶」には「迫る・押す」という意味があり、合わせて「そばに身をすり寄せて押し合う」ことを表しているそうです。従って、「挨拶」は人と人が出会い、出会った人同士が互いに心を開いて相手に迫っていくために交わす最初の言葉ということになります。また、「おはようございます」の意味は、「早くから起きてご立派、ご苦労様でございます」の略で、朝早くから働く人に向かって言う褒め言葉であり、ねぎらいの言葉でもあるそうです。「あいさつをしたら、返してくれてうれしい気持ちになって、一日がんばろうという気持ちになる。」これはあいさつ運動に関する子どもの声です。私自身も子どもたちの「おはようございます」に元気もらっています。「おはようございます」の意味がわかると、朝声をかけられたとき自然とうれしくなるのもうなずけます。

私は、「あいさつ運動」で朝正門に立っているときにいつも思い出す言葉があります。それは東日本大震災で被災し避難所運営に当たった経験のある元校長先生の言葉です。「朝の正門で子どもたちを迎え入れるときには、命がランドセルを背負ってきたって思うようにした。」この言葉に子どもたち一

人一人が、尊い命であることを改めて教えられました。今では、「おはようございます。」に「今日も元気に学校に来てくれてありがとう。」という気持ちも乗せています。

「あいさつ」は、その時々微妙な心の状態を映し出します。いつも元気にあいさつする子が、ちょっと声が小さかったりすると「あれ？体の調子でも悪いのかな？」などと考えたりします。

何かおかしいなということが、一言あいさつを交わすだけで自然と伝わってきます。また、「あいさつ」は人の印象にも繋がっています。初対面の人から明るく「おはようございます。」「こんにちわ。」と声をかけられれば、その人に対し好印象を抱くでしょうし、逆にこちらからあいさつをしても無視されてしまったら（たとえ意図的でなくとも）、自ずと印象は悪くなってしまいます。「あいさつは」、これから始まるコミュニケーションの重要な第一歩であり基本であることがわかります。

家庭・学校・地域をつなぐ野川地域の「あいさつ運動」はこれからも永く続くでしょう。その中で子どもたちには、「あいさつ」は、進んで交わすと気持ちよいもの、明るくされると心地よいもの、人とコミュニケーションを取る上で欠かせない大事なものの、さらに進んで気持ちよいあいさつができることは素晴らしいことであることを伝えていきたいものです。

野川地域の子どもたちのため、これからも皆様のご理解とご協力をいただきたくお願い申し上げます。

あいさつ運動の思い出

元野川小学校 校長
志村 辰也

私が毎朝野川小学校の正門に立ち、「あいさつ運動」をしていたのは、もう6年前のことになります。野川小学校にいた4年間、泊りがけの出張でもない限り、雨の日も、風の日も、そして寒くて手がかじかむような日も、毎朝欠かさずに正門に立ちました。

他校に異動して長くなりましたが、改めて「あいさつ運動」を思い出し、素晴らしいことだった」と感心することがあります。それは児童の顔と名前が一致して、しつかりと頭の中に入ってきたことです。毎朝一人一人の子どもたちと顔を合わせて挨拶していると、いつの間にかその子が何年何組の誰なのか、自然に覚えることができていたのです。

当時野川小学校は、千人近くの児童がいた大規模校ですから、全員を正確に覚えていたわけではありません。でも、学校以外の場所で会ったとき、野川の子だなと判明がつくくらいは顔を覚えることができました。今思うと、子どもたちとの距離が近かったと感じます。

異動して、しばらくたってから、電車の中で卒業生に出会いました。お互いに笑顔で自然に挨拶できました。これも「あいさつ運動」の効果だと思っています。

月日がたった現在でも「あいさつ運動」が続いていることは、本当に素晴らしいことです。すでに野川の伝統と呼べるものになっていると思います。人がかわり、時代が変化しても、野川地区の変わらぬ伝統として「あいさつ運動」が続いていくことを願っています。

益々の地域発展に

前野川小学校 校長
中川 久資

野川地域でのあいさつ運動が、12年目を迎えるとのこと、誠におめでとうございます。家庭・学校・地域の密接な連携の賜だと思います。

人と人とのつながりの更なる醸成や誰もが気持ちよい元気なあいさつを交わす環境をつくることで、人と人とのつながりを深め、住みよい地域づくりにつながっていくように思います。毎日の気持ちよいあいさつは、豊かな人間関係と思いやりのある心を醸成し、自分の住む地域に対する深い愛情をさらに育むことができる最初の一步です。

また、地域が密接につながることにより、防犯・防災上の強みや日常的に挨拶を交わすことで、人と人とのつながりが深められ、子ども達の登下校時や、生活の安全を守る効果ができると思います。また災害時の連携・協力の向上にも貢献できます。

今後も野川地域におけるあいさつ運動が、益々発展されることを祈念しています。



地域の人とあいさつがしたい！

元西野川小学校 校長
三村 修一

「大人の人にあいさつをしようと思うのですが、なかなかできません」

西野川小学校での学校教育推進会議の場での、子ども委員の発言です。こんな発言だったように思います。確か5年生の女の子だったか。平成19年6月、地域・学級・親・子どもの代表による会議です。

この子どもの発言を取り上げてくれたのが、当時民生委員でした。この声に大人も応えましょうという意見を述べていただきました。他の大人の委員の方も賛成していただき、「あいさつをしよう」という運動が始まるきっかけになりました。

当時、学校を取り巻く社会情勢が安全な場から安全とは言えない場へ変わっていきました。不審者による子どもの被害が各地で起こり、学校は施錠をせざるを得なくなります。野川地域でも悲惨な事件が起こり不安な雰囲気が漂います。

そんな中、町内会・自治会の民生委員は、あいさつ運動を一校だけにとどまらず、野川全体で、そして子供を通して広めようとします。野川中を中心にして、小学校三校計4校で。

当時の青木野川台自治会長のもとに、事務局が、各学校、町会、警察、区役所、地域教育会議などの関係機関に何度か足を運び、そして野川中学校の校長室で、初回の推進委員会が開催されたのです。こうした動きがなかったらあいさつ運動はなかったかもしれません。

あいさつ運動

～～共に支え支えられ～～

元西野川小学校 校長
榎本 重次

私は、西野川小学校に、あいさつ運動が始まった翌年から三年間勤務しました。あいさつ運動のことは、前任の三村校長先生から引継ぎをしました。

西野川小学校在任中、野川台自治会発行の広報紙「あいさつ運動の輪」が創刊されました。また子どもたちに呼びかけ標語「あいさつは、心と心のキャッチボール」もできました。標語は野川台自治会により、シール化され、地域の家庭にも配布されました。そして回を重ねるうちに子どもたちのあいさつも日常的なものとなっていきました。学校に来た人が子どもたちから「おはよう」に接し、「先生、気持ちいいね」の言葉。うれしい一言でした。

あいさつ運動のすてきなところ・うれしいところは、西野川小学校教育推進会議で子どもの委員の「地域の人とあいさつがしたい」との提案で始まったことです。

川崎市には「こどもの権利条例」（正式名称は「川崎市子どもの権利に関する条例」）があります。条例は、平成12年12月に市議会で成立しました。多くの市民や子ども委員の声をもとにしてつくられました。この条例の前文に「子どもは、大人とともに社会を構成するパートナーである。」という一文があります。また地域で子どもたちが社会参加しながら成長していけるように社会全体で支えていきましょう。と定めています。

私が、あいさつ運動が素敵だな・うれしいと思うのは、「子どもは、大人とともに社会を構成するパートナー」だということが地域で具現化していると感じるからなのです。共に活動できたことを感謝しています。

あいさつは身体で！

元西野川小学校 校長
高橋 順一

「あいさつには、点数がつけられます」と朝会
のとき話したことがあります。

- ・ 0点 = あいさつをしても黙っている
- ・ 50点 = あいさつしたら返してくれる
- ・ 100点 = 先にあいさつをする

ここまでは、子どもも分かったようです。

「150点のあいさつがありますが、わかります
かと尋ねました。子どもたちは、不思議な顔を
しています。

「正解は、笑顔で元気よくあいさつすること
なんです」というと、ああなるほどと納得した
ようです。それなら私もやっているぞという
顔をしています。「では、200点のあいさつ
ってあると思いますか？」と聞きました。

それはね、あいさつの言葉の前に相手の
名前を付けることなんです。

「〇〇さんおはようございます」とね。

これは、私自身も実践できていません。
なぜなら、私の習慣にないからです。

さて、どうすればあいさつの習慣化が
できるのでしょうか。

考えずに身体が反応するようにすれば
よいのです。

「グラッときたら、机の下！」は避難
訓練の成果です。

「人を見たら、「こんにちは」の反射
行動をとるように保護者・教師は指導し
続ければよいのです。昔から習慣化には、
「3日・3か月・3年」と言われています。

まずは、100回を目指して頑張りま
しょう。あいさつは、人と人をつなぐ魔
法の言葉と言われています。どういう
訳か、あいさつする方も、される方も
幸せになります。

気合を入れて「おはようございます」
とね！。

継続は力なり

前西野川小学校 校長
白坂 雅妃子

私の住む地域のことですが、休日の
午前、公園を歩いて学校から帰る小学
生を見かけ、声を掛けるところ、かなり
驚いた顔をしていました。知らない人
に声をかけられたと警戒しているのだ
と感じました。

こういうことは、野川地域にでもあ
るのでしょうか、それでも子どもたち
には、地域の人が全く知らない人ばか
りではなくなっているはずです。犬の
散歩でよく声を掛けてもらっていると
か、横断歩道で見守ってもらっている
とか、少しずつ自分の生活の中で周り
の人を意識できる気持ちが育っています。

校門の前であいさつを交わすことを
通して、声を出すこと、あいさつされ
る喜びを感じることに気づいていく
子どもの姿がありました。はじめは形
から始まったあいさつでも、経験を
重ねていく中で、子どもたちにとって
「あいさつは自然なこと」に変わって
いくのでしょうか。

時折、校門の前で声を掛けると涙
が出てしまう子どももいました。「な
にかあったの？」と聞くと、理由を
話し始めます。また、おはようと声
を掛けると、嬉しそうに朝見つけた
ものについて話す子ども、あいさつ
を交わす中で、心を交わす機会も
生まれ、人と人のつながりができて
います。地域の方のご協力を得て
続く「あいさつ運動」をきっかけに、
自然なあいさつや会話の温かい地域
として益々していくことを願っています。

地域で育つ子どもたち

元南野川小学校 校長
高橋 邦夫

私が南野川小学校に着任したのは平成18年ですが、当時校長をされていた近藤真市先生は、暑い夏も寒い冬も登校時には、毎朝欠かさず正門や南門に立たれ、子どもたちに朝のあいさつをされていたことを思い出します。私は教頭でしたので朝は電話対応で校門に立つことはできませんでしたが、その後校長になってからは、近藤先生と同様に子どもたちを迎えてきました。

実際に立ってみると子どもたちが生き生きとした笑顔で登校してくる姿に接することができました。子どもたちは、朝のあいさつの気持ちよさを感じ、その後、児童代表委員からの提案により、朝のあいさつ運動が保護者も含めて行えるようになったことは嬉しいことでした。

南野川小学校を離れてから7年ほど経ちましたが、ある時の学校だよりには「人のかかわりあい、あいさつから」をモットーにあいさつに重点を置かれていること事が書かれていました。研究発表のために各学校から多数の先生を迎えた時などは、訪問された先生から「廊下で明るく元気にあいさつをする子どもたちには感心します」との感想も聞かれ、当時からのあいさつ運動が続けられていることを知ることができ、学校を離れた今でも嬉しく誇りに思います。

地域の方々には、あいさつ運動を通して地域で育つ子どもたちの健やかな成長を温かく見守っていただいていることに感謝いたします。

あいさつっていいね

元南野川小学校 校長
現犬蔵小学校 校長
秋本 和子

南野川小学校を離れて早4年。野川地域において自治会・民生委員・保護者の皆様方や子どもたちへの思いとご支援により、このあいさつ運動の輪が地域に根差し、継続されていることに敬意を表します。

南野川でのあいさつ運動を通して私が得たことは、「大人が元気に、誰にでも、気持ちのよいあいさつをすること」こそが、子どもたちへの一番の教えであるということです。犬蔵小学校でも日々実践していますが、その中であいさつに関するエピソードを二つ紹介します。

① 毎朝、子どもたちと「おはようございます！」とあいさつを交わしても、いつも下を向いてしまう3年生の女の子。でも諦めずに毎日その子に向かってあいさつをしていると、その子の唇がかすかに動くようになり、そのうち、声にはなっていませんが、はっきりと「おはよう」と読み取れるくらい唇が動くようになり、そしてとうとう私の目を見て、恥ずかしそうに、でも、聞こえる声で「おはよう」とあいさつをしてくれるようになりました。「やったね！」と心の中でVサインでした。

② 廊下ですれ違うたびに「おはようございます」「こんにちは」と元気にあいさつをしてくれる6年生の男の子。日光修学旅行で宿の階段ですれ違ったときにも、「こんにちは」という変わらぬすこやかなあいさつに思わず笑みがこぼれました。

「いつでも、どこでも、誰にでも」…。2020年のオリンピックには、誰でもが最高の笑顔とあいさつで外国の方々をおもてなしできればいいなと思います。

野川地区の取り組みを広げよう！！

元南野川小学校 校長
現はるひ野小学校 校長
木下 孝文

三年間南野川小学校でお世話になりました。地域のみなさまには、良くしていただいて、心から感謝しています。自分にとっても南野川小学校での毎日は、宝物となりました。その中でも地域ぐるみで取り組んでいる「あいさつ運動」はとても心に残っております。町内会・自治会、民生委員や「支え合う福祉の風土づくりを進める会」等を中心として学校、家庭、地域が同じ方向を向いて取り組む素晴らしさを肌で感じることができました。また「あいさつ運動の輪」を毎回拝見し、各小学校が地域の皆さんの取り組みを知り、「自分の学校も頑張ろう。」と気が引き締まりました。朝正門に立ちながら、代表委員会の児童と「最近のあいさつの様子はどうですか。」「高学年の人は恥ずかしいのか、声が小さい人がいます。」「どうしたらみんな気持ちよくあいさつができるのか。」などと会話しながら解決策を練ったことも懐かしい思い出です。

私は、「子どもたちが、将来よりよく生きていてほしい。」と願っています。よりよく生きるという意味は、それぞれ捉え方が違うとは思いますが。しかし人とのかかわりを大切しながら生きていくことは、よりよく生きるためには必要不可欠ではないでしょうか。その始まりが「あいさつかな。」と考えています。また、「丁寧にあいさつをする人は、自分も人も大切にできる」だと思っています。

どうかこれからもあいさつ運動の輪を野川地域から外へ外へと広げていってください。私も自分の地域で、それを広げ、気持ちのよいあいさつが響き合うよう力を尽くしていきます。

あいさつ運動が育むもの

元野川中学校 校長
今井 勇

長年にわたりあいさつ運動の輪を通して地域の子どもたちを温かく見守り続けてくださりありがとうございます。熱意と誠意に心より感謝申し上げます。私が中学校在任中子どもたちの「おはようございます」「さようなら」という明るく元気なあいさつが日々の支えになっていたことが懐かしく思い出されます。

先日、引っ越しを業者に依頼することがありました。担当の若い女性スタッフの明るくさわやかな仕事ぶりに感心していたところ、その方が偶然にも野川中学校の卒業生であることが分かり思わず「野川中学校バンザイ」と心の中で叫んでしまいました。このかたのように、社会人として立派に活躍されていらっしゃる多くの方がいることは、ひとえにあいさつ運動の輪を実践して下さっている多くの地域の皆様方のお陰と確信しました。私も住んでいる地域で近所の方や子どもさんたちにあいさつをするように心がけています。「おはようございます」「いってらっしゃい」とこえをかけると「おはようございます」「行ってきます」という声が返ってきてみなさんと一緒に校門に立っていた時のことを思い出します。

これからも何卒あいさつ運動の輪を通じて子どもたちを温かく見守り続けてくださるようお願い申し上げます。

「懐かしい野川中学校区」

元野川中学校 校長
北谷 辰雄

野川中学校区のみなさんご無沙汰しております。私がお世話になりました平成23年～27年までの5年間は、地域の方々に大変お世話になりました。その5年間は、地域からの協力・応援を頂きながら、学校からも地域行事への参加を積極的にさせていただきました。特に地域清掃や盆踊り、募金活動、コンサートの参加など地域と学校が相互に関係づくりを進めることができた5年間だったように思います。そこに参加・協力してくれた子どもたちも、地域の方々との関係を築きあげてくれました。そして、学校を訪ねてくる地域の方々や学校周辺を散歩する方々へも多くの子どもたちが、元気よく挨拶をしてくれたおかげで、「野川中学校の子どもたちは挨拶がすばらしい」という、評価をいただいたことを思い出します。

私事ですが現在、川崎の地を離れ三浦市に転居いたしました。家を出る時間が早いことから、残念ながら地域の子どもたちと挨拶を交わすことができません。数少ない早朝散歩をするお年寄りに合うくらいで、その方々と挨拶をする程度でめっきりその機会が減り、野川中学校区の子どもたちと挨拶を交わしたことが懐かしくもあります。

この「あいさつ運動の輪」が定期的に発行され、人とのつながりの一歩である「あいさつの」の輪が広がっていくことを願っております。

心温まる野川中学校でのあいさつ運動

前野川中学校 校長
川崎市教育委員会 職員部
堀川 芳夫

野川中学校に在籍中は、毎朝正門前に立ち「おはようございます」と登校してくる生徒や正門前の道を西野川小学校に向かう児童、仕事に向かう地域の方々とあいさつを交わしていました。

正門に立つと横に立派な桜の木、目の前の西野川小学校には沢山の木々があります。春には桜の花びらが散る中、夏には眩しいほどの青空のもと、秋には紅葉の木々の中を、冬には雪かきをした道を登校してくる子どもたちや地域の皆さまと朝あいさつができたことは、今思い出すととても心温まるいい思い出です。

また下校時には、生徒会主催の「さよならプロジェクト」があり、部活動を終えた生徒に「さよなら」と声を掛けていました。あいさつとしての「さよなら」には、「今日も一日頑張りましたね、また明日」との思いを込めていたと思います。

あいさつ運動で広がった地域との輪は、さまざまな形で発展しました。例えば毎年、吹奏楽部や福祉委員会が野川小学校で行われる福祉まつりに参加させていただいております。素晴らしい演奏を披露するだけではなく地域の方々とさやかにあいさつを交わす姿やスタッフの一員として地域の方と協力しながら取り組んでいる姿は、日頃のあいさつ運動の成果と言えると思います。

現在、私は教育委員会に勤務しております。毎日満員電車に乗り多くの人とすれ違いながら勤務先まで行きますが、ほとんど無言です。仕方のないことですが、改めて「おはようございます」の一言が自分自身にとっても、心温まるありがたくも優しい言葉であったことを、痛感しております。

社会全体が寛容でない方向に向かっているように感じる昨今です。野川地域の伝統でもある「あいさつ運動」を通して人と人が優しい気持ちで繋がる共生社会の基盤を更に確かなものにしていただければと思っています。

4 野川地域の小・中学校のPTA会長の思い

『おはよう』で笑顔の輪を

野川小学校PTA会長
平野 洋一

その日を楽しく過ごせるか、朝一のあいさつにかかっていると思います。起きてすぐに家族と交わす「おはよう」ただ声に出すだけでなく、

「相手の目を見て」「大きな声で」「笑顔で」これを少し意識するだけで、とても良い気持ちで一日を始められます。

人と知り合う時も、最初のあいさつで印象が、がらっと変わってきます。心地よいあいさつができる人の周りには、自然と人の輪が出来上がっていき笑顔の輪が広がっていくと思います。

まずは、自分が相手に喜ばれるあいさつをするように心がけ、地域に良い風を吹かせられるように努めたいです。

この野川が、お互いに自然とあいさつを交わし、笑顔あふれる町になることを願っております。



あいさつで培うチーム西野川の絆

西野川小学校PTA会長
石渡 圭輔

「おはよう!」「いってらっしゃい!」。早朝から西野川小学校の校門前に元気な声が響きます。地域の皆さん、校長先生をはじめとする先生方、PTA役員の皆さんといった大人達と、学年ごとに順番で参加してくれる子ども達が、毎月2回のあいさつ運動に参加しています。低学年の子ども達は元気いっぱい、高学年の子ども達は落ち着いた声でしっかりと、それぞれのカラーがあいさつに表れています。私がPTA会長に就任する前から“チーム西野川”という言葉があり、私はこの言葉が大好きなのですが、子ども達を中心に地域・学校・保護者が連携して子ども達にとって安全・安心な環境を作っていくチームという風に理解しています。私自身あいさつ運動に参加し始めて、この運動が“チーム西野川の絆を作ることに大きく寄与しているのだなと、気付かされました。大人も子どもも互いに顔を合わせて挨拶を交わす。大げなことではありませんが、社会全体の韌性が弱くなっている現在においては、とても大切で、価値あることだと感じています。これからもあいさつ運動を通じて地域・学校・保護者、そして子ども達との相互理解を図り、より絆の強い、素敵な“チーム西野川”を作って行けたらと考えています

広げよう、あいさつ運動の輪

南野川小学校PTA会長
高野 貴生

挨拶は一番手軽なコミュニケーションではないでしょうか。おはよう、有難う、こんにちは、など見知らぬ人でもこの言葉で笑顔になり心が晴れやかになる、とても素晴らしいものだと思います。

先日、中学校に行った時の事です。何人もの生徒さんが私を見て、元気よくこんにちわ！と挨拶をしてくれました。どの子も自然と挨拶をする様子を見てとても嬉しく、清々しい気持ちになりました。

挨拶は一日、二日で簡単に出来るようになる訳ではありません。小さい頃からの日々の積み重ねが重要だと思います。中学校の挨拶は、小学校時代から培った朝のあいさつ運動の賜物であると実感しました。

あいさつは人と人を結びつけてくれます。近年、地域社会との関わりが希薄になったと言われていますが、このあいさつ運動が学校だけにとどまらず地域社会へと広がっていけばより明るく充実した生活を送れるのではないのでしょうか。

私たちは、これからもあいさつ運動を続けて行きたいと思います。今後とも皆様のご協力、並びに積極的なご参加をどうぞ宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、この運動に先駆けて取り組んでくださいました地域の皆様、諸先生方、ご協力してくださる全ての皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

地元の小・中学校と係わって10年！

野川中学校PTA会長
亀ヶ谷 豊

私は、3人の子どもを地元の小・中学校に通わせた関係もありまして、この10年その小・中学校のPTA会長を経験させていただいております。それ故に、児童・生徒はもとより先生方とも接する機会が多く、あいさつに関して色々と感じるところがあります。その一端をお話しします。

ひとつに、児童・生徒の声として、「毎朝、元気にあいさつするとシャキッとして、今日も頑張ろうというという気持ちになる！」とか、あるいは「あいさつすると自分も相手も心が通じ、気持ちよくなり、自然と他の学年とも仲良くなれるし、地域の人とのあいさつもできるようになった」という話も聞かれます。また現場の先生方からは、「あさの子どもたちのあいさつは、その子のその日の最初の意思表示で、それを読み取ることから、私たちの一日の始まりみたいですよ、それが大事なんですよ」、また「子ども達もあいさつをし合うことは、色々な面を含めて今日もお互いに頑張ろうという気持ちになるのです」という声も聴かれました。

過日の広報紙に、野川地域をウォーキングしていたグループが下校時の児童とすれ違う際「こんにちは！」と声を掛けられ思わずびっくりし、慌てて挨拶を交わしたという記事が載っていました。当初あいさつ運動も、とすると学校内で終わるという感じがしていましたが、今は地域であいさつができるようになってきました。世代間交流が言われている今日、地域の人も、時には「お節介おじさん、お婆さん」になってあいさつを交わすことも大切かと思います。野川地域のように、10余年に渡り中学校区単位であいさつ運動をしている地域は珍しいと伺っております。ぜひ野川地域の財産にしたいものですね。